

平成30年6月16日

「玲瓏祭」挨拶

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

一人一人の未来を象徴する玲瓏祭に

今年のテーマは、「百花瓏乱」（ひゃっかろうらん）。

いろいろの花が咲き乱れるが転じ、秀でた人材がたくさん出て、優れた業績が数多く現れるという意味ともなる「百花繚乱」（ひゃっかりょうらん）の一文字を変えています。和歌の本歌取りのように、もとの言葉の概念が背景、奥行きとなり、そこに今年度のテーマの新しい概念が加わり、重層化が図られています。

「瓏」は、すぐれた者同士が切磋琢磨し共に高め合うという、本校の校標の一つ「玲瓏同氣」から来ています。「玲瓏」は、玉が触れ合う澄んだ美しい音。永世七冠を達成し、国民栄誉賞を受賞した棋士の羽生善治氏も、揮毫きごうでよく用いる言葉です。

「百花瓏乱」は、本高生一人一人の個性が切磋琢磨するかのように咲き乱れると同時に、本高生が共に協力・協調し合い、一つの澄んだ美しいハーモニーを奏でるかのような文化的活動を創造する、という新しい意味を形作っています。

今年の玲瓏祭が、本高生の一人一人の未来を象徴するものとなることを、心から願っています。